





音接松の内叙



遠  
2132  
26

へ13  
2816











あつておぼろげなうらな海路  
能く海國のときり物付らるる  
ふれし茶のよき味ふはきき  
故のやわらじおぼろげなうらな  
茶のよき味ふはきき

此のやわらじおぼろげなうらな  
彼のよき味ふはきき  
茶のよき味ふはきき

十の百  
ちと味本



自序 吳氏

十雨亭の首陽翁余を謂て

曰は下ハ馬を養ふなりと奈何ん

ハ此を養ふ事其の誤り也

流し牙を張と漢元身何のおも

答曰之鳴呼お撥をてまあられ

大まかなるお雨田園はあはれ

曰木は石拂ふ仍て伐らぬを

従へん厚いふ林は因て屋有る

林の名深矣ありまは第一植を

や木植を屋まは四孔の交是を

我生る木樹の功を融毛を



乃益いふ事なり余高田賢見の君子  
あましくは天竺の女所の六徳事  
果てはあまの散て亦そ書ふるあまの  
は山崎屋生海縣の街小の蓆と  
織物言徳あり東地の塩街ふ  
ちり冠の書多ふ大匠ありし事かた  
見者ありし納く湯敷の徳にお利

ぬまのたのた里の橋をへくこと。そ  
ちる金の形とて橋を換るといふ  
あま金の虫をへかゝる也七巻の合  
中とて採るは高橋のいしる橋  
大橋の所業とて採るは大都會



おろし目ハ金三州ハ土一升撮  
あれは徳を澤すお利 予分願貨あれ  
ハ早下ハ見敏給者ありされど  
利口の郵を度と成るは  
ふりる度子増しるは予のちりる始  
むるハ早下と伴連田急の徳なり

予 煎今福申の母京交ハおまけ小  
款と著者も交前車の誠子其全く  
るて借の者おまやアのれと志系美去  
示時ころの和二我を成子盃陽の日

十邊會一九識敬貞







青樓松之裡目錄

第一章

○ 虚子何れ実情を想もて倡客の自負

第二章

○ 義小迫て色男と許し明業の志操

第三章

○ 思ふ還て意地めを凡倡婦の意

青樓松之裡

第一章

遠くて在きものハ男女の中と女物をも云々も  
十方佐古の海ちより 本意を返すあはれとハ  
志加るもの材を初子のりとの玉珠をよよ  
と伸よの歎をいせされど長明が原の松も此  
さふおつひを返しやうはれり車よを  
うらむをいしてうられり後の後をいして



てを人の康秀あきんどのすはなをそそよ  
国ハ流石の馬立山麓の花よめつる懐きま  
五拾圓の逢七曲の陣小伴く假銀士の平之  
此よあはしし 雨側の兼持る世三の空のそ  
あな男をひく假也あはしん佐七のねをち  
續く申の街の春はしき平修ひく淫神節  
の禊也其後しちちへ山のあはれは日徹  
乃年風あふ初えはのそるふらうり地

うの盤約して飲もあ紅の家屋の香よ  
花やきせ定家の山屋を存る小指をちりて  
牛邑のころあふおもる花街の佳典画々  
此の毫こそあふあふりしあふあふりし  
字夾の傍のあふあふりしあふあふりし  
うける名匠の千友万あし判子羽かそへて  
ふ家一の扇とへん 海筆ちをりせ万葉  
の事とつあふあふの年経神あふりし







































はけちりてよりしるすに竹田の事を  
ここに記すにしるすに竹田の事を  
しるすに竹田の事をしるすに竹田の事を  
しるすに竹田の事をしるすに竹田の事を  
せん松にたりやるんその事らに記すに  
きりてよりしるすに竹田の事をしるすに  
をありしよりしるすに竹田の事をしるすに  
しるすに竹田の事をしるすに竹田の事を

ありんちんしるすに竹田の事をしるすに唐  
それをもおしるすに竹田の事をしるすに  
りしるすに竹田の事をしるすに竹田の事を  
ありしるすに竹田の事をしるすに竹田の事を  
おしるすに竹田の事をしるすに竹田の事を  
んしるすに竹田の事をしるすに竹田の事を  
しるすに竹田の事をしるすに竹田の事を  
しるすに竹田の事をしるすに竹田の事を



















唐松

松のときん令のてし

たすしと

たかいも

志や

あり

中

い

松

ちん

か

ま

と

ら

く

人

唐松

松のときん令のてし

たすしと

たかいも

志や

あり

中

い

松

ちん

か

ま

と

ら

く

人























そ願ねがふまけはよちのしましいしよめがふたりやう

あらあまはまこちされおせ回りやいそく

評ひやう日ひ世よ名な固こり美男おとこ小こ姫ひめはり口くち小こ

あらに緒の自負おのこが男妓こ女めの後援あふ

ちやりし何なに時ときでも中ちゆう庸ゆう小こ太た子しでゆるお人ひと

ちやり板小こ室むろの雨窓まど小こやりまさらしの秋夜よ

の一花はなちやりしいしはら

第三章

依よ又また此こゝ小こ作しやう田でん屋やのカカカといふ 後下ご 下 下

あらあまはまこちされおせ回りやいそく

あらに緒の自負おのこが男妓こ女めの後援あふ

ちやりし何なに時ときでも中ちゆう庸ゆう小こ太た子しでゆるお人ひと

ちやり板小こ室むろの雨窓まど小こやりまさらしの秋夜よ

の一花はなちやりしいしはら

あらあまはまこちされおせ回りやいそく











なまふかせ 固 古 くらりく **茶** 松の と さん お

このん 中 ま へ ト 思ひてしうんをらぬやせふけち

た や ひ け る の 多め 法 符 符 あり と 記 号 あり

扱 戸 後 符 の 留 の ち ぎ び あり 務 あり

扱 号 あり と 扱 の れ 口 ぞ 寸 一 ル 記 号 あり

責 の あり 判 法 記 号 の 扱 あり と 扱

な り 廊 下 の 足 ぎ 記 号 あり 扱 あり

軒 の 扱 あり と 扱 あり 扱 あり

然 の 記 号 あり 扱 あり 扱 あり

各 代 記 号 あり **扱** あり 扱 あり 扱 あり

し じ ま あり 扱 あり **扱** あり 扱 あり

し じ あり 扱 あり **扱** あり 扱 あり

し じ あり 扱 あり **扱** あり 扱 あり

し じ あり 扱 あり **扱** あり 扱 あり

し じ あり 扱 あり **扱** あり 扱 あり

し じ あり 扱 あり **扱** あり 扱 あり



























ちひもてきおるてしつちがはが  
しつせう<sup>一</sup> **坂**ニをりやアおめおらうしを  
くけどもさうまきふまうしつて  
ちんまのれおちんあしあまの船より  
くは<sup>一</sup> 舟田やあつていふうちつとむり  
ておしんいしつら<sup>一</sup> へら女<sup>一</sup> 二日の内ぶめ  
てま<sup>一</sup> おおむもちあつていふしつて  
よ<sup>一</sup> **唐**の<sup>一</sup> せんをまうしつていふ

あまの<sup>一</sup> ころもよう<sup>一</sup> せんを<sup>一</sup> **坂**の<sup>一</sup> へら  
てしつて **唐**の<sup>一</sup> まうしつていふ  
せん<sup>一</sup> ころも<sup>一</sup> おら<sup>一</sup> いふ<sup>一</sup> ちや<sup>一</sup> ころや  
せん<sup>一</sup> おらん<sup>一</sup> ころも<sup>一</sup> せん<sup>一</sup> ころも<sup>一</sup> せん<sup>一</sup>  
とれ<sup>一</sup> の<sup>一</sup> せん<sup>一</sup> おらん<sup>一</sup> ころも<sup>一</sup> せん<sup>一</sup>  
てあま<sup>一</sup> の<sup>一</sup> ころも<sup>一</sup> せん<sup>一</sup> ころも<sup>一</sup> せん<sup>一</sup> **坂**  
せん<sup>一</sup> ころも<sup>一</sup> せん<sup>一</sup> ころも<sup>一</sup> せん<sup>一</sup> **唐**の<sup>一</sup>  
せん<sup>一</sup> ころも<sup>一</sup> せん<sup>一</sup> ころも<sup>一</sup> せん<sup>一</sup> せん<sup>一</sup>



ん志記ふつけとらりせりしに **唐** さいと入  
しめん **唐** むんふ **唐** 志びりし **唐** 志  
きし **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
向ひて 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
あし 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
**唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
福 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
む 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
む 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう

夫 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
ま 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
情 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
慶 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
か 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
の 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
護 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう  
護 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう **唐** 志 下あひいしげさう



の返書言意の通書

めいしきくあーれ

青楊松之内返篇

海著衣装

本陽堂板 全部一冊

十編全九著

青楊松之内返篇

予考て之氣思たり 俗換料屋

聲を傳ふと云た 末女編を此たり

おとくば 赤城好子の形ふしまた云り

一よ乃 新巻を覚へ 隆ねをふ書

あや子 藤巻を長をたの具形







如永

滑種者乃怡三五部少多張赤その  
見風小振所乃七放代の赴向  
と重むも是然候おのぬくたれ  
まを思ふれなる好ふ事おのぬく  
酒男利口の侍はるるも合事おのぬく  
男乃酒のまらばおのぬく男乃酒

及子其難終あふらるるし終へ

考橋中街演中屋集屋

橋中乃あわく

子席舎一九歳





目

五十三月



